

令和6年度（2024年度）第2回東海市環境審議会会議録

1 会議名

令和6年度（2024年度）第2回東海市環境審議会

2 日時

令和6年（2024年）10月11日（金）午後2時から午後3時30分まで

3 場所

東海市役所 501会議室

4 出席者

(1) 環境審議会委員（17名）

福井 弘道、澤木 眞、大橋 直子、久野 辰男、越智 亮、毛利 まり子、山下 妃呂巳、大木 孝二、佐藤 雅之、松村 実、久野 兼幸、青木 均、山口 純、高井 賢治、高下 秀一、神野 妃代、武富 時満

(2) 事務局（7人）

小笠原環境経済部長、河田環境経済部次長兼生活環境課長、櫛田ゼロカーボン戦略室長、井上生活環境課統括主任、野々部生活環境課統括主任、中平生活環境課主任、株式会社地域計画建築研究所1名

5 欠席者

北村 秀行、小野 久仁陸

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者

なし

8 会議内容

(1) 会長挨拶

(2) 議題 第3次環境基本計画の策定について

ア 策定に係るスケジュール

㍿ 事務局より説明【資料1】

㍿ 質疑応答

特になし

イ 計画書概要版

㍿ 事務局より説明【資料2】

㍿ 質疑応答

（委員）現在、環境基本計画推進委員会は3つの部会で構成されている。前回の推進委員会でも、部会を2つにし、生活環境保全・自然共生部会と気候変動対策・循環型社会部会にわけてはどうかということであった。それぞれの部会でかなりのボリュームの内容を扱っていくことになると思うが、部会を統合した基本的な考え方は何か。

(事務局) 現在の推進委員会のメンバーは 15 名であり、人数が多いため、全体で話し合う際になかなか意見が出てこないという課題がある。他市町の例も参考として、今よりも人数を減らした方が、より活発な議論が行えると考えられるため、次期推進委員会の体制は 10 人から 12 人程度としたいと推進委員会に説明している。また、新たな計画案では環境の柱が 5 つあり、全体に係る環境行動以外の 4 つの柱で各部会を構成した場合、1 つの部会あたりの人数が少なくなり、運用が難しくなる。よって、2 つの部会の体制とすることによって、1 部会あたりの人数として 5 人から 6 人を確保しながら運用することができると考えている。

ウ 計画書素案 第 1 ～ 3 章の策定経緯及び主な確認点

㊦ 事務局より説明【資料 3 - 1、3 - 2】

㊧ 質疑応答

特になし

エ 計画書素案 第 4 章の策定経緯及び主な確認点

㊦ 事務局より説明【資料 4 - 1、4 - 2】

㊧ 質疑応答

(委員) 降下ばいじんの周知について、比較のために東海市外で測定している数値を教えてください。東海市内での測定数値だけをみても、他の場所と比べて高いのか低いのか分かりにくい。

(事務局) ※資料の準備で回答に時間がかかったため、「(4)その他」で回答を行ったもの

先ほどご質問のあった降下ばいじん量についてご報告する。現在、県内 8 か所（東海市、知多市、豊川市、田原市、一宮市、瀬戸市、半田市、碧南市）で降下ばいじんを観測しており、令和 4 年度（2022 年度）の 8 か所の年平均値は 2.02 t/km²・月となっている。東海市以外では、瀬戸市が 1.21 t/km²・月と最も低く、知多市で 3.01 t/km²・月、碧南市が 2.40 t/km²・月と多い状況である。

なお、東海市は横須賀中学校で観測しており 3.37 t/km²・月である。

オ 計画書素案 第 5 章の策定経緯及び主な確認点

㊦ 事務局より説明【資料 5】

㊧ 質疑応答

(委員) 産業道路でタヌキが見られるという話を聞いているが本当か。

(事務局) 市内でタヌキの発見事例を聞いている。ただ、タヌキではなくヌートリアという可能性もある。企業が連携して臨海部企業地帯にアニマルパスを作っており、キツネが増えているという話も聞く。

(委員) 生物多様性の観点から、とても良いことではあると思うが、実際問題として、タヌキのような自然動物を車が轢いてしまうという二次災害を起こすリスクがある。

(事務局) 生物多様性の保全と人々の社会生活とのバランスをうまく取りながら、落としどころを見つけていくことが大切と思う。

カ 第6章の策定経緯及び主な確認点

㍻ 事務局より説明【資料6】

㍿ 質疑応答

特になし

(3) 報告事項

ア 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）年次報告書について

㍻ 事務局より説明【資料8】

㍿ 質疑応答

(委員) 資料の中に低圧電灯、低圧動力、高圧とあるが、この区別の違いはなにか。

(事務局) 契約形態の違いである。

(委員) CO₂排出量について、令和元年度や2年度に、コロナの影響で生産活動が停滞したことで減少していることはわかるが、2015年に極端に減少している要因は何か。

(事務局) 電力が大きな影響を与えるが、電力のCO₂排出係数が低かったことが原因ではないかと推測している。

(4) その他

(事務局) 愛知県内の降下ばいじん量についての報告を行ったもの。

次回は令和7年（2025年）1月27日（月）に第3回東海市環境審議会と公害防止協議会を実施し、時間は午後1時30分から午後5時までを想定しているもの。